

# 高遠藩士の仕事と暮らし

今から150年以上前、高遠の地には高遠城が存在し、城を取り巻くように200軒もの武家屋敷が並んでいました。その屋敷は官舎であり、住宅でありながら役所を兼ねている場合もありました。そのため、高遠藩政に関する文書は自宅で保管され、高遠城廃城後も処分を免れました。そうした文書の一部は書画等と共に残され、当館や高遠町図書館へ寄託又は寄附されるケースも増えてきています。これにより、高遠藩士たちが普段どのような仕事をし、どのような暮らしをしていたか明らかにすることが可能になってきました。

今回の展覧会では、給人という上層階級の藩士の家、無足という給人より下の階級の藩士の家、足軽として藩に採用された人物がいた家の古文書・古記録によって藩士の仕事の一端や年中行事等をひもとき、装束や武器、書画等から、仕事から離れた時の藩士たちの暮らしぶりをあきらかにします。高遠藩の武士達についてより具体的にイメージできるようになり、少しでも身近な存在になれば幸いです。



北原益太郎具足  
(個人寄託、当館保管)

幕末に進徳館師範代となった北原安定の父、北原益太郎の鎧兜。兜の吹返には北原家の家紋である丸に蕉の紋が入っている。胴は紐糸すげおどししがゆどうまる素懸威最上胴丸で、五枚の板の連結に革札を利用している。



小嶋治左衛門具足  
(個人蔵)

江戸時代中期の高遠藩で御徒士目付、御仕送方、御中小姓、御中小姓目付を務めた中山(小嶋)治左衛門重房の鎧兜。兜の前立物に家紋の御幣が付いている。胴にボシエツのような鼻紙袋がついた紐系威二枚胴具足。

ものがしらかく けん こん  
『者頭古格』乾・坤  
(個人寄託、当館保管)



神戸家に伝わる物頭の業務用資料。過去に物頭が担当した出来事を日付順にまとめ直したもので、年間にどのような仕事があるのかわかることができる。



## ギャラリートーク 2月28日(土)、5月3日(日・祝)、17日(日) 午前10時30分～11時30分

- 会場：伊那市立高遠町歴史博物館 第3展示室 ● 参加費：入館料のみ ● 定員：なし
- 案内人：福澤 浩之(伊那市立高遠町歴史博物館学芸員)

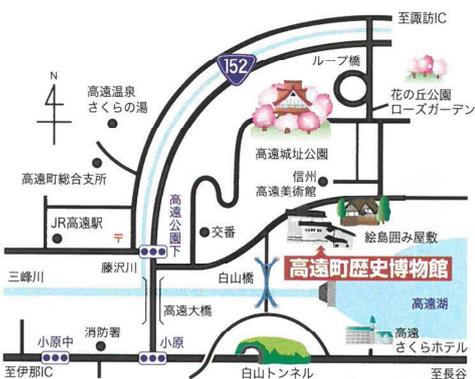
## 第39回 歴博講座 5月17日(日) 午前13時30分～15時 演題「大庄屋制度と高遠藩洗馬郷巡村」

- 会場：伊那市高遠町地域間交流施設(歴史博物館隣) ● 参加費：100円(資料代) ● 定員：40人
- 講師：中原 文彦 氏(洗馬地区誌編集委員会委員長)

## ワークショップ 6月6日(土) 午前10時～11時30分

- 会場：伊那市立高遠町歴史博物館 1階ロビー、第3展示室 ● 参加費：入館料のみ ● 定員：20人
- 内容：歴史資料とデジタル化 ● 進行役：福澤 浩之(伊那市立高遠町歴史博物館学芸員)

## 伊那市立高遠町歴史博物館



せつざん  
山下雪山 筆 (内田文右衛門肖像)

内田文右衛門は高遠藩の祐筆。明治時代の政治家・教育者伊澤修二や丸ビル眼科で二重瞼の矯正手術を行った内田孝蔵の祖父。作者の山下は代官。絵が巧みなことで知られた。

長尾無墨 筆《雁図》  
六曲一隻屏風(部分)  
(個人寄託、当館保管)

長尾無墨は江戸時代後期の高遠藩士宇夫形豊久の子で、詩文や絵画に長け、廃藩後は筑摩県の役人を経て画家となった。雁の絵を多く残している。

